令和5年10月29日　Vol.1329

社長の経営哲学の構築にお役立ちする

経営者への活きた言葉

税理士法人　優和

TEL０３－３４５５－６６６６
FAX０３－３４５５－７７７７

経営者への活きた言葉

ドイツ企業が「特許巧者」である３つの理由

ホルガー・エルンスト（独ＷＨＵオットー・バイスハイム経営大学院教授）

１．特許や特許分析の積極的かつ戦略的な活用は今後、世界中の企業で重要になると確信している。欧州の場合、特許情報の経営への導入が進んでいるのがドイツだ。それには３つの理由がある。まず、ドイツには技術に基づくイノベーションの伝統があり、優秀な発明者への報酬はしっかりしている。

２．次に、化学などの産業で特許の文書化と分析に長い伝統があることがある。ＢＡＳＦやメルクなどの企業はコンピューターやビックデータを活用した特許分析のメリットに早い段階で気付いた。そのため、それまでの特許をめぐる活動の効果も大幅に向上させることができた。化学産業での特許分析が軌道に乗ると、他の産業でも特許の戦略的な活用が進んだ。

３．そして最後が、知財分野における新しいタイプのリーダーの出現だ。ＢＡＳＦの元知財部長ウドー・メイヤー氏やシーメンスの知財部長であるビアド・バイベル氏など、新しいアプローチを積極的に受け入れ、トップマネジメントに近い立場から新しい知財部門をつくっていった。また将来的には「ＣｈａｔＧＰＴなどの人工知能（ＡＩ）は、企業が特許データを使用・分析する方法を大きく変え、改善していくだろう。

（参考：「日経ビジネス」2023年7月17日号）

経営者のための経済学

需要が失われた30年から供給が失われる30年へ

小林　俊介（みずほ証券チーフエコノミスト）

１．過去の記憶として葬り去られつつある「失われた30年」。1990年以降を振り返ると、バブルの崩壊、その後は不良債権問題により金融機能が低下した。同時にグローバルゼーショが広がり、空洞化が進展した。このような多くの要因から発生した劇的な需要不足が、日本経済の長期停滞を演出した。

２．今は幸か不幸か、長年の賃金低迷と近年進展した円安の結果として日本人の労働コストが相対的に安価となり、空洞化は止まった。コロナ禍を受け、再び苛烈な需要不足が生じたものの、経済再開により需要が正常化している。こうして日本経済の問題は成長の天井を規定する供給側に移った。実は需要不足の陰で、供給能力の劣化は着実に進展している。

（参考：「週刊ダイヤモンド」2023年8月5日号）

経営者のための危機管理

企業不正の奥底に潜む大きな問題

１．企業の不正発生に影響を与える原因として「個人の不正許容度」「組織の不正黙認度」が大きい。個人の性格の影響は見られず、企業の不正は特有の組織要因によって起こることが多い。このような企業の不正発生には「共同体主義」が関わっている。本来企業は、目的を追求する「機能集団」だが、日本では情けによってつながる、家族や村のような「基礎集団」、共同体としての性質を併せ持つ。

２．そして共同体化した組織で生まれる、共同体のあり方が絶対的に正しいとする「共同体主義」が、企業の不正発生に関わる問題であると指摘する。不正抑制には「閉鎖性」「同質性」「役割の不明確化」といった環境自体を変え、共同体主義を脱却することが必要だと考えられる。

（参考：「週刊東洋経済」2023年7月22日号）

古典に学ぶ

「無常」を受け入れてきた日本人

１．私たち日本人は、「無常」を理解しやすい心の土壌を持っています。たとえば、季節の変化に富んだ日本ならではの自然の姿は、時の移ろいを感じ取る感受性を育みました。

２．また、度重なる台風や地震は、自然の脅威（きょうい）を受け入れながら生きていく姿勢を養いました。日本人に受け継がれたこのような無常観は、これからの時代を生き抜くためにも必要です。

（参考：名取芳彦監修「空海　道を照らす言葉」）：河出書房新社